

本日の聖書箇所選ばれております使徒言行録第2章には、主イエスが天に帰られてから十日後に、使徒達に聖霊が降された記事が記されております。使徒たちは聖霊に満たされて、その語らせるままに他国の言葉で話し始めました。ここに書かれております場所は、当時の全世界を現しています。そしてお気づきのように、使徒たちは12人だったにもかかわらず、それより多くの国語で神様の偉大な御業が語られていたというわけです。これが聖書の伝える聖霊降臨の出来事でした。

旧約聖書の創世記には、この聖霊降臨の出来事とは対照的なバベルの塔の物語が出てきます。

『世界中は同じ言葉を使って、同じように話していた。東の方から移動してきた人々は、シニアルの地に平野を見つけ、そこに住み着いた。彼らは、「れんがを作り、それをよく焼こう」と話し合った。石の代わりにれんがを、しっくい代わりにアスファルトを用いた。彼らは、「さあ、天まで届く塔のある町を建て、有名になろう。そして、全地に散らされることのないようにしよう」と言った。主は降って来て、人の子らが建てた、塔のあるこの町を見て、言われた。「彼らは一つの民で、皆一つの言葉を話しているから、このようなことをし始めたのだ。これでは、彼らが何を企てても、妨げることはできない。我々は降って行って、直ちに彼らの言葉を混乱させ、互いの言葉が聞き分けられぬようにしてしまおう。」主は彼らをそこから全地に散らされたので、彼らはこの町の建設をやめた。こういうわけで、この町の名はバベルと呼ばれた。主がそこで全地の言葉を混乱（バラル）させ、また、主がそこから彼らを全地に散らされたからである』

このように人間は、自分が神になりかわれるものだと誤解してこのような塔をつくらうとしたのでした。主なる神は人々の言葉を乱し、この行いをやめさせました。世界に様々な言語があるのを作者はこのように理解したということです。

その人間が、今度は主なる神の偉大な働きを聞くということで、言葉の壁が越えられたというわけです。主なる神によって散らされた言葉は、再び主なる神によって乗り越えられ、宣教によってすべての民に一致が与えられたのです。先ほども触れました通り、ここに記されている地名は当時の全世界を現しております。主なる神の偉大な働きを、全世界の人々が聞き、使徒たちを中心と

する宣教活動が、主イエスを宣べ伝える働きが始まったということなのです。

聖霊降臨の記事は多くのことを私たちに伝えておりますが、本日は二つのことに心を止めてみたいと思います。

まず聖霊降臨は教会の誕生につながったということです。物音を聞いて集まった人達は、最初使徒たちが酒によっているのではないかと思いました。しかし使徒の一人ペトロから主イエスを遣わされた主なる神の救いの業を聞いた人々は、大いに心を打たれ、約三千人が洗礼を受けたのでした。こうしてキリストにあって一つとされている人々の集まり、すなわち教会が誕生したのです。聖霊降臨日は教会の誕生日でもあるのです。従って教会には聖霊降臨日は大変重要な日なのです。聖霊降臨日は主イエスの誕生日である降誕日、そして復活日と並んで教会の三大祝日に数えられています。しかし、降誕日や復活日ほど聖霊降臨日は重要な日だと私たちは考えていません。しかし教会にとって聖霊降臨日は一番重要な日であることをよく覚えておきたいものと思います。

そして第二は、教会の使命は使徒たちがしていたように、主なる神の偉大な業を宣べ伝えること、すなわち救いの業を全うされた、主イエスを伝えることだということです。教会は主イエスの姿を、生き方を、教えをまだキリストを知らない人々に伝えていく使命を負っているのです。それは教会が誕生した日から、今日かに最初に与えられた使命だったのです。しかしここで大切なのは、使徒たちはこの日のために、何を言おうかと事前に話し合っていたのではなかったということです。それは御霊すなわち聖霊の語らせるままに語っただけだったのです。私たちへのメッセージは、使徒たちと同じように私たちに語りかける聖霊の声をさまたげる罪を遠ざけて、聖霊が語らせるままに語り、行動することが出来るように祈ることです。この日から今日に至るまで聖霊は私たちに強く働きかけています。教会の使命、そして私たちが聖霊に従って生きることを本日の聖書は教えております。聖霊の働きによって強められた使徒たちと同じように、私たちも強められていきたいものです。

本年は特に、新型コロナウイルスの出来事の中で聖霊の降臨を迎えることになりました。一時より危機は遠ざかったとはいえ、まだまだ安心できず、引き続き取り組みが求められています。今回の出来事によってわたしたちは、お互いを大切にすることを学び、自らの心に潜む差別を再認識し、主なる神によって生かされている私たちはどのように進めばよいかを改めて考える機会を与えられたように思います。聖霊の導きによって、私たちが使徒たち同様、力強く

歩んでいくことができるよう、祈り求めます。

最後に主イエスの御言葉を聞きましょう。『何をどう言おうかと心配してはならない。そのときには、言うべきことは教えられる。実は、話すのはあなたがたではなく、あなたがたの中で語ってくださる、父の霊である』。